

“デジタル人民元”のインパクト — その目的と仕組み、課題 —

講師: 露口洋介 帝京大学経済学部教授 日中関係学会評議員

日中関係学会(会長・宮本雄二元駐中国大使)は、2021年9月16日(木)に研究会を開催します。

ビットコインなどブロックチェーン技術を用いた仮想通貨(暗号資産)は、当初世界中で使われる「夢の通貨」として期待されましたが、その後コイン流出や、投機目的の資産に変質するなど、多くの問題点も明らかになりました。しかし、2019年にフェイスブックが立ち上げた仮想通貨「リブラ」構想(後にディエムとして修正変更)を契機として、現在デジタル通貨の本命といわれる中央銀行が発行する中銀デジタル通貨(CBDC)への取組が世界各国で本格化しています。特に中国人民銀行が2019年にデジタル人民元の発行計画を正式に表明し、2020年10月から深圳で実験を行い、また2022年の冬季オリンピックでも実験が計画されていることは、世界に強烈なインパクトを与えました。

米国、EUはこの動きに神経をとがらせ、米国FRBは2021年5月に「デジタルドル」の本格的検討を始めることを示唆、欧州中央銀行は2021年7月に「デジタルユーロプロジェクト」を正式に開始することを決定しました。日本銀行も2021年4月に実証実験を開始しました。将来のデジタル通貨の世界標準と金融覇権をめぐり、熾烈な競争が始まりつつあります。

果たしてデジタル人民元の目的は何なのか、米ドル覇権への挑戦を意味するのか、また、それほどのような仕組みで、どのような課題が残されているのか、今回の研究会は日中関係学会評議員で中国金融に詳しい露口洋介 帝京大学経済学部教授に世界の動向を踏まえて講演していただきます。

非会員の方も大歓迎ですので、奮ってご参加ください。

==== 講師紹介 =====



露口洋介 帝京大学経済学部教授 日中関係学会評議員

(略歴)

1980年 東京大学法学部卒業、日本銀行入行

・在中国日本大使館経済部書記官

・日銀香港事務所 次長

・日銀北京事務所 所長 などを経て

2011年 日本銀行退職

・信金中央金庫、日本大学を経て

2018年4月より帝京大学経済学部教授

(専門分野)

金融論、マクロ経済学、中国経済

====開催要領====

日時: 9月16日(木) 18:00~20:00 (質疑応答込み)
会場: オンライン ZOOM (定員100名、先着順)
参加費: 会員は無料、非会員は有料 (社会人1000円、学生500円)

【会員の方】

下記のリンクから「Google form」を開き、▼ご氏名、▼ふりがな、▼メールアドレス、▼電話番号(任意)、▼所属支部(関東・東海・関西・海外)をご記入の上、送信して下さい。(登録後「受け付けました」とのメッセージが出ますが、確認メールは送付されませんので、重複登録にご注意下さい)

<https://forms.gle/hycUbtkjQX3Hpi4k7>

何らかの事情でGoogle formを開けない方は、Eメールの件名に「9月研究会参加希望」とお書きの上、上記の必要事項を記載して、下記の担当者にお送りください。ZOOMのリンク情報は、後日、Eメールでお知らせします。ご不明な点があれば担当者にお尋ねください。

■担当: 方淑芬(日中関係学会事務局) → fangshufen0218@gmail.com

【非会員の方】

下記のリンクから、「イベントペイ」を開き、必要事項をご記入ください。

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=6794493562486728&EventCode=P535758367

▼クレジットカードの方は、お申し込みと同時の決済となり、すぐにZOOMのリンク情報をメールでお知らせします。

▼コンビニ決済、ペイジー決済をご希望の方には、支払い方法をご案内し、入金確認のあと、ZOOMのリンク情報をメールでお知らせします。尚、入金後の返金はできかねますのでご了承ください。ご不明の点があれば、下記の担当者までご連絡ください。

■担当: 高山勇一(日中関係学会事務局) takayamayu5@gmail.com

準備の都合上、参加申し込みは、**9月13日(月)まで**にお願いします。なお、それ以前に申し込みが定員に達した場合は、受付を締め切らせていただきます。皆様のご参加を、心より、お待ちしております。

日本日中関係学会本部事務局

〒108-0073 東京都港区三田4-7-19ハタビル2F